

## アドバイザーをつとめた「塩竈市津波防災センター」開館記念式典において記念講演しました (2018/07/12)

テーマ：津波避難施設，震災伝承，防災教育，地域活性化  
場所：塩竈市津波防災センター（宮城県塩竈市）

7月12日（木）、「塩竈市津波防災センター」の開館記念式典が開催されました。震災の記憶が風化するのを防ぐために、塩竈市では震災直後の状況を写真や映像とともに伝える津波防災センターが完成しました。以上は平時の機能であり、津波発生時には一時避難施設として開放されます。また市営汽船の運休により浦戸諸島への帰宅が困難となった方の待機場所としても活用されます。

当研究所の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）は、同センター2階フロアの震災伝承と防災知識を学習するスペースの一部のアドバイザーをおおせつかりました。同日は、開館記念式典に参加するとともに、開館を記念して「災害の記憶を継承することの意義—過去の被災事例をもとに—」というタイトルで講演を行いました。講演は、式典終了後の任意参加であったにもかかわらず、周辺地域や浦戸諸島の方もお越し下さり、約50名の参加となりました。佐藤翔輔准教授からは、東日本大震災以前の震災伝承の事例の効果や、2004年新潟県中越地震の震災伝承に関連した防災教育や地域活性化の事例を紹介したうえで、今後のセンターの取り組みについての方向性提議を行いました。質疑・感想もたくさんいただきとともに、佐藤昭・塩竈市長より、御礼ならびに今後の連携リクエストのお言葉をいただきました。今後、市民のみなさんとともに、同センターの利用・地域活性化に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



塩竈市津波防災センター



講演の様子



2階フロア



テープカットの様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）  
写真一部提供：塩竈市